〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
TEL. 0261-22-0211 FAX. 0261-21-2133
✉ E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:https://www.omachi-sanpaku.com
市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、大町山岳博物館友の会の支援により博物館が運用しています。

OMACHI ALPINE MUSEUM
市立 大町山岳博物館

山と博物館

「山と博物館」は自治会などを通じ全戸配布されるほか、市役所および関連施設で配置配布しています。また博物館公式 Web からもご覧いただけます。

2024
春号
第 69 巻 1 号

無料
Free

表紙の1枚 ……1
・擬態の達人をさがそう！
さんぱく研究最前線 ……2・3
・「峠」がおもしろい。
山博コレクション ……4
・大町市と歩んだ「ハクチョウ」
付属園だより ……5
・ライチョウの移動が行われました
博物館のひろば ……6・7
山博友の会だより ……7
2024年度　博物館年間スケジュール ……8

擬態の達人をさがそう！

写真：2024 年 1 月　コマダラウスバカゲロウの幼虫

岡本　真緒

冬を越し、凍えるような寒さを感じない季節となりましたが、生物たちは寒い冬をどのように越していたのでしょうか？昆虫は変温動物であるため体温調節ができず、冬は動き回ることができません。昆虫たちの冬越しは種類によって卵から成虫まで様々な段階で行われ、その場所の選択も土･水･枯れ木の中、落ち葉の下、木の枝などバリエーション豊かです。身動きがとれない冬でもそれぞれ工夫をして命をつないでいます。雪も降る、寒さの厳しい大町市で、体温を保てない昆虫たちが暖房もなしに冬を越しているのかと思うと、生き物ってすごいなと改めて感じます。

そんな、冬は見つけにくい昆虫ですが、一度見つけてしまえば一年中簡単に観察できる昆虫が博物館のすぐそば（詳しくは博物館“X”をご覧ください）に棲んでいます。皆さんは写真の中の生き物を見つけることができたでしょうか？実はたくさん写っているのでぜひじっくり探してみてください。この見事な擬態をしている昆虫は、地衣類を身にまとうことで周囲の環境にとけこんでいます。この生き物の正体はコマダラウスバカゲロウという虫の幼虫です。いわゆるアリジゴクの仲間ですが、実はアリジゴクという種類の昆虫は図鑑を探しても見つかりません。アリジゴクはウスバカゲロウの幼虫のことを指します。また、アリジゴクといえば土の中に巣穴を作って獲物を待ち伏せしているイメージがあるかと思いますが、日本で 20 種類以上確認されているウスバカゲロウの幼虫のうち、巣穴をつくる種は数種類しかいません。コマダラウスバカゲロウは巣を作らない種類で、周辺環境に擬態して身を潜め、大きなあごを開いて通りがかる昆虫をじっと待ち伏せして生活しています。

コマダラウスバカゲロウは数年間幼虫で過ごすことから、１年中観察することができますので、博物館へお越しの際は、ぜひコマダラウスバカゲロウの幼虫探しに挑戦してみてくださいね。　（市立大町山岳博物館　学芸員）

◆市立大町山岳博物館は、月曜日と祝日の翌日が休館です。ただし、月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館となります。
◆開館時間は、午前９時～午後５時（入館は午後４時30分まで）です。
◆毎月第３日曜日の「家庭の日」とその前日の土曜日は、**「大町市民無料開放デー（長野県民割引）」**として、大町市民の方は観覧料が無料です。また、この日は長野県民の方も団体割引料金で観覧いただけます。今季の該当日は４月20日・21日、5月18日・19日、6月15日・16日です。この機会にぜひご来館ください。
◆次の方は通年、いつでも博物館を無料で観覧いただけます。**《障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方１名／未就学児／大町市内小・中学校に通う児童・生徒／大町市内在住の65才以上の方と高校生》**
このほかにも観覧料の各種割引があります。詳しくは受付窓口でお尋ねください。

博物館施設案内はこちら

「峠」がおもしろい。

竹村 健一

1．青具峠を知っていますか？

「峠」とは、漢字が示すように山道を上りつめてそこから下りになる所です。（山越えの場合、最も標高が高い地点でもあります。）

図１　青具峠周辺の地形図　（地理院地図に加筆）

大町市の北東縁に「青具峠（あおく）」（標高822m・図１・図２）があるのはご存知でしょうか？ここは1990年代初頭までは、長野方面から白馬へ最短距離で抜ける場合に必ず通る峠でした。しかしながらカーブが多く、積雪期に通行が難しくなることもありました。1998年の長野オリンピック開催にあたり、長野-白馬間を短時間でかつ安全に確実に通ることができるルートが検討されました。その結果、青具峠の直下に「美麻トンネル」を通し、新しく県道33号線と改名され、利便性がよくなりました。一方で「青具峠」は地域住民の方以外の通行が減り、その存在を知る人も少なくなったようです。そんな「青具峠」ですが、何と地名が「峠」です（図２）。地形図にも「峠」の表示（図１）。バス停も「峠」の１字のみです。

図２　青具峠

また、「峠」の多くは県や市町村の境界にあることが多いのですが、青具峠は境界ではありません。境界（大町市／白馬村）は峠から北に下って水平距離にして800mのところです。これだけでもおもしろい「峠」ですが、地質的にも興味深い場所です。

2．複雑な地質構造

この地域は、下図のように大変複雑な地質です。

図３　青具峠周辺の地質　（長野県デジタル地質図に加筆）

青具峠の東約0.5kmには小谷-中山断層（図４）が通っています。西約2.5kmには、糸魚川-静岡構造線に伴う神城断層（木崎湖以南では松本盆地東縁断層）が通っています。この２つの断層に挟まれた部分がいわゆる“大峰帯”で、標高800m～1200mの丘陵を形成しています。地質的には第三紀末（約300万年前）頃から始まった北アルプスの火成活動に伴って運ばれた堆積物が分布しています。おもに礫岩～砂岩や流紋岩質の溶結凝灰岩・軽石質凝灰

岩・安山岩質溶岩や貫入岩などからなります（図5）。

なお、小谷-中山断層の東側は約900万～500万年前のフォッサマグナに堆積した砂岩～泥岩層（小川層）が分布します。神城断層より西側は中古生代の頁岩・砂岩・蛇紋岩・チャート・火成岩と北アルプスの火成活動に伴う火成岩類などが分布しています。

図4　小谷ー中谷断層が通る場所（石原）

図5　太郎山安山岩の滝（左）と軽石質凝灰岩（右）

3．青具峠（あおく）の名前の由来

1552（天文2）年に武田信玄がこの地を治めていた大日方氏に送った書状に「大子」の記述があることから古くは「大子（おおこ）」と呼ばれていたようです。その後、「青具」と表記されるようになり、「おおこ」が「あおく」に転化したのではないかとのことです。なお、「おおこ」の意味は「奥郷（おおごう）＝奥の方にある村落」とする説もあります。私は、漢字の“青”は県道33号線沿い（土尻川右岸）の砂礫層の崖が「青い」ことに由来するのではとひそかに思っています（図6）。

図6　「青い」砂礫層　（県道33号沿い）

4．「青具」の名がつく石

「青具石」と呼ばれる石もあります。「青具石」は、太郎山安山岩の別名です。太郎山安山岩は太郎山を中心に南北に延びる山稜や尾根、滝を形成しています（図3）。ただし、この安山岩は様々な顔をもっていて、黒色のガラス質安山岩だったり、灰色の輝石安山岩だったり、かんらん石玄武岩質安山岩だったりします。また、産状も溶岩だったり、貫入岩だったりします。そんな岩石ですが、戦後、青具集落の石材店でこの安山岩を使って墓石を作っていた人が、「青具石」と呼んでいたとのこと。風化して退色すると茶色い砂岩のように見えます。しかし、細かな結晶や小さいガス穴状のものも見られることから火山岩であることは間違いありません。川手集落でよく似た墓石（図7）を見かけましたので、住民の方にお聞きしたところ「青具石」かどうかはわからないということでした。ぽかぽかランド美麻の源泉掘削で得られた試料が「青具石」として当博物館に保管されています（図8）。

今後、調査を続ける予定です。

図7　青具石製？の墓石（川手）

図8　青具石（ボーリングコア試料）

【参考文献】
・美麻村誌編纂委員会編（2000）：「美麻村誌」.
・加藤碩一・佐藤岱生・三村弘二・滝沢文教（1989）：大町地域の地質．地域地質研究報告（5万分の1 地質図幅），地質調査所.
・長野県地質図活用普及事業研究会編著（2015）：長野県デジタル地質図2015

（市立大町山岳博物館　専門員）

山博コレクション

大町市と歩んだ「ハクチョウ」

栗林　勇太

写真１　オオハクチョウの剥製
（昭和24年、平村（現大町市平）青木湖産、当館蔵）

写真２　駅前の水禽舎で飼育されていたオオハクチョウの写真（昭和26年頃撮影、当館蔵）

今、大町市や当館を代表する鳥はもちろんライチョウ。しかし、市が誕生した70年前は、「ハクチョウ」も重要な存在でした。収蔵庫で存在感を放つハクチョウの剥製や写真資料から、市と当館の草分け時代が辿れます。

日本で見られるハクチョウは、大きく分けて冬にユーラシア大陸から飛来するコハクチョウ（*Cygnus columbianus*）とオオハクチョウ（*Cygnus cygnus*）、外国から輸入され年中留まるコブハクチョウ（*Cygnus olor*）の３種。安曇野市で多く見られるのはコハクチョウで、コブハクチョウは松本城のお堀など各地の公園等で見られます。一方、オオハクチョウは北海道や東北、新潟などを中心に飛来し、県内での飛来事例もあるものの僅（わず）かに留まります。

そのオオハクチョウが昭和24年に青木湖に飛来し、当時は明治時代以来の出来事として話題となりました。写真１の剥製は、その時に猟師により採取された物で、同じ年に、メスの１羽が保護されました。そのメスは当館が開館した昭和26年に大町駅前に移動され、以来駅前でハクチョウの飼育が開始されます。当時の状況は、次の「山と博物館」の記事から知ることができます。「地方文化の開花のために突如として訪れた女神であり（中略）地元の人々を始め遠来のアルピニスト達の旅情をなぐさめている」「実に博物館建設の親であり、大町へ文化の風を送り込んだ使いであった」。大町市の名物として、「大白鳥のみやげ品」まで作られます。その後も木崎湖には度々ハクチョウの飛来が見られ、「白鳥保護運動」が興ります。木崎湖は禁猟区に指定され、海ノ口地区では小学生が少年少女クラブをつくり、「みんなで白鳥をかわいがりましょう」と言っていたといいます。昭和37年には、皇居外苑からコブハクチョウ１つがいを送っていただき、繁殖が試みられるなど、賑わいがありました。写真１の剥製は、当館で常設展示されていました。

しばらくし、昭和59年に豊科町（現安曇野市豊科）にハクチョウが飛来。以来、その地での飛来数は年々増加し、現在近隣でハクチョウといえば安曇野というイメージが定着しています。仁科三湖では依然ハクチョウの飛来を耳にするも少数で、いつしか大町駅前の水禽舎は撤去、山と博物館で語られることも絶えました。長い間展示されていた剥製も、平成の半ば頃に収蔵庫入りとなりました。

オオハクチョウの剥製は、かつての生息を記録する上で学術的な価値があります。同時に、市政70周年を記念する年のお彼岸に、この地の振興の土台となった動物達も想い出してほしいと考えるのは、私のエゴでしょうか。

（市立大町山岳博物館　学芸員）

付属園だより　ライチョウの移動が行われました

今年のライチョウの繁殖に向け、１月と２月に生体移動が行われました。大町山岳博物館（以下、山博）のライチョウは高齢個体や血縁の近い個体が多く、繁殖が難しくなってきていたため新たな個体の導入に至りました。

山博からは３羽を搬出し、新たに３羽（ニホンライチョウ２羽、スバールバルライチョウ１羽）を搬入しています。この中のニホンライチョウ２羽が元から山博にいたライチョウとペアを組み、繁殖を行う予定です。

～搬入されたライチョウ～

ニホンライチョウ（メス）　富山市ファミリーパークより来園

2021年生まれで今年３歳になります。あまり人に馴れておらず、来園当初は近づくだけで飛び上がり、ケージの天井に頭をぶつけてしまっていました。刺激を与えないように静かに慎重に…。環境に慣れてくれるまでもうしばらくかかりそうです。

ニホンライチョウ（オス）　横浜市繁殖センターより来園

2018年生まれで今年６歳になります。上記のメスとは対照的で、到着して飼育室に出したとたん一目散に餌に向かって駆けていきました。掃除の際に飼育室に入ると「ゴアァァ」とオス特有の鳴き声を発しながら近寄ってきます。

スバールバルライチョウ（オス）「ステラ」　恩賜上野動物園より来園

2016年生まれで今年８歳になります。モヒカンヘアがチャームポイントです。このモヒカンについて上野動物園の方に伺うと「一時期頭部の羽が抜けてしまい、その後生えてきた羽が立ちあがっていた」とのことでした。偶然の産物とはいえ、某元サッカー選手のような髪型でとてもかっこいいですよね。本誌が発行される頃には展示室デビューをしている予定です。

＜これからの動き＞

現在は新たな環境で緊張気味のライチョウたちですが、繁殖を行う飼育室の準備ができ次第そこに移動させ、さらにその環境に慣らしていきます。その後、産卵が始まる５月下旬頃までに餌の調整、オスとメスのペアリング（お見合い・同居）、産座（メスが産卵するための箱）の設置などを行いその日を待ちます。

今年は新たなペアでの繁殖ということもあり、個体の性格や雌雄の相性など読みにくい部分もありますが、まずは有精卵が採れるよう最善を尽くして取り組んでいきます。

～搬出されたライチョウ～

●ニホンライチョウ（オス）
2019年当園生まれ
横浜市繁殖センターへ

●スバールバルライチョウ
「スバル・ヨコハマ」（オス）
2017年横浜市繁殖センター生まれ
約４年間当園で過ごす
富山市ファミリーパークへ

●スバールバルライチョウ
「ギンガ」（オス）
2022年当園生まれ
恩賜上野動物園へ

博物館のひろば

講演会「ニホンオオカミを探し続けて50年」

令和5年11月11日（土）

ニホンオオカミは、明治末頃に国内で絶滅したと評価されています。一方で、同種とみられる生き物の目撃は後を絶ちません。この度、NPO法人ニホンオオカミを探す会代表の八木博氏を講師にお招きし、講演会を開催しました。氏は50年に渡り、秩父の山中を中心にニホンオオカミを探し求め、現在まで活動を続けておられます。「秩父野犬」と称されるニホンオオカミと思しき生き物との遭遇などの、長年にわたる豊富なエピソードをご紹介いただきました。50名の参加者のうち、3名から「私もニホンオオカミを見た」という体験談が聞かれ、大盛り上がりの中開催することができました。

大町自然探検隊 星空観察教室

令和5年11月19日（日）

友の会の丸山さんを講師としてお迎えし、大町自然探検隊として星空の観察会をしました。野外観察中は、天体望遠鏡を用いて月のクレーターや土星の輪をじっくりと観察することができました。また、2300万光年離れた星を観察した際は、天体望遠鏡を使ってもはっきりと見えない光を参加者たちが全力で探す様子がみられました。イベントの最後には、街明かりが動物に及ぼす影響について学芸員が解説を行いました。イベントをとおして大町市から見える星空や夜の過度に明るい照明が周囲に及ぼす影響について考えていただけたと思います。

学校との連携授業（大町南小学校）

令和5年11月28日（火）

当館では、市内の小学校を対象とした「学校との連携授業」を毎年行っています。小学校の社会・理科授業の一環として、骨格標本を見ながら勉強するものや、百瀬慎太郎やライチョウに関して展示資料を実際に見ながら学芸員が解説するもので、学校で学んだことをより一層理解する良い機会となっています。11月に大町南小3年生が、社会科の授業で当館を訪れ、学芸員が市の様子について解説を行い、学習を深めていただきました。熱心に話を聞いている生徒の姿が印象的でした。

第125回中部ブロック飼育技術者研修会に参加しました

令和5年11月29日（水）～30日（木）

第125回中部ブロック飼育技術者研修会がいしかわ動物園で開催され、19園館、25名が参加しました。2日間をとおして研究発表が行われ、各園館が取り組んできた研究の成果を発表し、さらなる飼育技術の向上を目指し交流を行いました。園内施設の見学では、ライチョウの飼育舎にも入らせていただきました。これにより、他園の繁殖設備や普段の飼育方法の共通点・相違点を実際に見て、情報を交換し合う大変貴重な機会を得ることができました。この研修で得られた経験を今後の飼育に活用してまいります。

東小学校に地層見学（理科学習）の講師を派遣しました

令和5年12月4日（月）

この授業では6年生の皆さんを対象として、野外での地層観察と、教室での鉱物観察を行いました。中山高原周辺には茶色の火山灰層が厚くたまっています。それは、今から約35～7万年前に立山など北アルプスの火山が噴火した時に飛んできたものです。野外では火山灰層の重なり方とどのようなものでできているかを学習しました。厳しい寒さと雪の中でしたが、斜面をよじ登って観察しました。その後教室で、火山灰を水洗いして鉱物を取り出し，顕微鏡で鉱物の観察をしました。火山からの送りものである美しい結晶を自分の目で確認し、判別する面白さを体験していただきました。

林業大学の生徒に、山の環境に関する講義を行いました

令和5年12月5日（火）

長野県林業大学校の生徒が来館し、館長と学芸員が山の環境に関する講義を行いました。地球規模での温暖化が叫ばれる中、森林、里山及び山岳といった山を巡る情勢は大きく変貌しています。林業大学校では、山と人とがつながる社会の実現に貢献する人材の育成に取り組むため、「山の環境学」として山に関する様々な環境について学ぶ学習プログラムを展開しています。

当日は山に関する水循環と生き物についての解説を行いました。

信州の昆虫を食べよう！

令和5年12月9日（土）

山岳総合センターと共催で「昆虫食」に関するイベントを開催しました。大町地蜂愛好会の越山秀雄氏から、氏が体験された昆虫食や地蜂に関するエピソードを講演いただきました。また当館学芸員が「虫と人との付き合い」と題したテーマで、過去～現在までの人と虫との関わりや、食用にされてきた虫に関する生態などの解説を行いました。イベントの最後に、昆虫食を実食。昔ながらの佃煮や、最近のカイコカレーなど、バラエティに富んだ昆虫食を堪能していただきました。

企画展「大町と絶滅動物」のミュージアムガイドの開催

令和6年1月7日（日）

３回目となる今回のミュージアムガイドでは、午前と午後の２回で約30人に参加いただきました。この地域だけではなく、国内各地から参加がありました。

１月28日で企画展は閉会となりました。約３ヶ月にわたり多くの来館者にご観覧いただきました。ニホンオオカミの頭骨やニホンカワウソの剥製を見ることを目的に来館された方も多くいらっしゃいました。企画展の内容を記録した展示解説書を当館で販売しておりますので、ご興味・関心のある方はぜひお求めください。

大町自然探検隊 バードウォッチングin仁科三湖

令和6年1月20日（土）

木崎湖の周辺で、バードウォッチングのイベントを開催しました。当日はギリギリ天候に恵まれ、当館学芸員の講師の下、カモなどの水鳥だけでなく、里に暮らす様々な鳥を観察することができました。カルガモをはじめ、コガモ、キンクロハジロ、またホオジロガモなどのカモの仲間のほか、ジョウビタキやツグミなどの冬鳥が確認され計26種の鳥を観察（もしくは鳴き声を確認）することができました。寒い時期での開催でしたが、時間を忘れるほど参加者は観察に熱中している様子でした。

山博（さんぱく）友の会だより

当会またサークル４団体（ボランティアの会・烏帽子の会・花めぐり紀行・山岳文化研究会）の活動は、博物館公式HPでご覧いただけます。

友の会ボランティアサークルの活動を紹介します。

定例では月１回、博物館周辺の除草等環境整備や印刷物の封入発送作業を行っています。連休中は、付属園まつりの受付、ライチョウ解説はじめ博物館内ガイドをし、来館の皆さんとの触れ合いを楽しみます。講演会やイベントでは、受付、会場設営等に協力し、また、展示物の移動、収蔵庫の整備・清掃作業などをしています。フィールドでも、居谷里湿原の遊歩道整備や観察会ガイドに協力しています。

研修として県内外の博物館を訪れています。今年度は、6月に新潟県『十日町市立里山科学館越後松之山「森の学校」キョロロ』を訪ね、今年1月は、昨年新装した松本市立博物館で市民ガイドによる展示解説を聞き研修しました。それぞれの博物館の環境、展示内容、ガイドから学び、知識の向上に努め、

ボランティア活動に活かしています。

山岳博物館でも、自然、人文それぞれ関係する学芸員や専門員から学び、見分を広げる機会とし、いつも楽しみながらボランティアを続けています。

2024年度　博物館年間スケジュール

年間スケジュールは変更となることがあります。今後発行される「山と博物館」「広報おおまち」「山岳博物館ホームページ」などをご覧ください。

2　階 ホール	さんぱく研究最前線 ―北アルプスの自然と人―	３か月ごとに学芸員等による調査研究の成果「山の科学・研究トピックス」が展示されます。地元に根差した調査研究の成果が主体ですので、新たな地域発見につながるのではないでしょうか。

月（家庭の日）	常設展・企画展・関連イベント	講座・観察会・展示会など
4月（20・21） 5月（18・19）	**常設展「山と美術」** 開催期間：４月～７月末 山岳博物館が収蔵する山岳風景画をゆっくりとご鑑賞ください。 ※企画展開催期間中は「山と美術」はご覧いただけなくなりますのでご注意ください。	**■友の会総会記念講演会** **「長野県におけるイワナとその増殖について（仮題）」** 日時：４月21日（日）　13：30～15：30 講師：長野県水産試験場　小松　典彦 氏 会場：市立大町山岳博物館　講堂 対象：大人（定員40名） ※参加無料・要事前申込み
6月（15・16） 7月（20・21） 8月（17・18）	**企画展「大町の少年が世界を駆ける　山岳ランナー上田瑠偉10年の軌跡」** 開催期間：8月10日（土）～10月14日（月・祝） 世界の山からふるさとの山まで。 彼を追う山岳カメラマン藤巻翔の撮りおろしによる写真展、世界一になった大町出身の山岳ランナー上田瑠偉が山と山を走る素晴らしさを伝えます。 ※オープニング講演会等の関連イベントあり。 詳細は今後掲載される当館ＨＰ等でご確認ください。	**■付属園まつり** ５月１日（水）～５月５日（日） **◆クイズ＆スタンプラリー**（全日9:00～16:00） **◆ライチョウガイド**（全日9:00～16:00） **◆動植物観察ツアー** （５月３日（金・祝）～５日（日）10:30～、14:30～） 植物：５月３日（金・祝）10：30～ ５月４日（土）　10：30～ 動物：５月３日（金・祝）14：30～ ５月４日（土）　14：30～ ５月５日（日）　10：30～、14:30～ **◆おおまぴょんと遊ぼう** （５月３日（金・祝）～５日（日）11:00～、15:00～） ※時間が前後する可能性がございます。 ※参加無料・申込み不要
9月（14・15） 10月（19・20） 11月（16・17）	**常設展「山と美術」** 開催期間：10月中旬～２月下旬 	**■大町自然探検隊** 日時・会場： 当館公式ＨＰにてご確認ください 対象：どなたでも ※要事前申込み
12月（14・15） 1月（18・19） 2月（15・16） 3月（15・16）	**企画展「小学校の生きもの探索記」展** 開催期間：3月9日（日）～5月10日（土） 学校の敷地にはどんな生き物がいるのでしょうか。 本展では、植物・昆虫・鳥を中心に紹介します。 ※ミュージアムガイド等の関連イベントあり。 詳細は今後掲載される当館ＨＰ等でご確認ください。	**■わくわく自然講座（年２回）** 長野県山岳総合センター・山岳博物館共催事業 ４～５月　探鳥会 ７月　水辺の生き物 ※要事前申し込み **■自然ふれあい講座** **「みんなで温暖化ウォッチ ～セミの抜け殻を探せ！～」** 長野県環境保全研究所・山岳博物館共催事業 日時：７月下旬～８月上旬頃　10：00～正午 会場：大町公園・市立大町山岳博物館周辺 対象：小学生とその保護者（定員20名） ※参加無料・要事前申込み　TEL：026-239-1031 **■信州自然講座** 長野県環境保全研究所・山岳博物館共催事業 日時：２月 会場：サン・アルプス大町 **■山のサイエンスカフェ inさんぱく2025** 日程：３月（２日間） 時間：各回13：30～16：00 会場：市立大町山岳博物館　講堂 対象：大人（定員　各回30名） ※参加無料・要事前申込み

編集・発行
市立大町山岳博物館 OMACHI ALPINE MUSEUM
―創立1951年―
〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
市立大町山岳博物館　編集責任者　鈴木啓助
TEL. 0261-22-0211　FAX. 0261-21-2133
✉ E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:https://www.omachi-sanpaku.com

2024 春号
第69巻１号

発行日　2024（令和６）年３月22日
印　刷　有限会社北辰印刷
〒398-0002長野県大町市大町3871-1
TEL.0261-22-3030　FAX.0261-23-2010